

りよう< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 よい子の広場福祉会	事業所名	看護小規模多機能 夢前ひまわりホーム
所在地	(〒 671-2122) 姫路市夢前町置本 439-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

病気を抱えていても医療・介護の専門家の目が届く環境で、他の機関や家族と連携を取り、医療依存度の高い方も積極的に受け入れ、「通い」「宿泊」「訪問」を柔軟に組み合わせたサービスを提供し、住み慣れた自宅で自分らしく「いつもの暮らし」が継続できるよう家族や地域と共に支えあえる施設づくりを目指します。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 3 月 10 日	従業者等自己評価 実施人数	(11) 人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 3 月 16 日	出席人数(合計)	(7) 人 ※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	☐ 自事業所職員 (3) 人 ☐ 市町村職員 () 人 ☐ 地域包括支援センター職員 (1) 人 ☐ 地域住民の代表者 (1) 人 ☐ 利用者 () 人 ☐ 利用者の家族 (1) 人 ☐ 知見を有する者 (1) 人 ☐ その他 () 人		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)		毎月の会議の前などに基本理念の唱和から始め、理念の浸透を図り、看多機の役割を理解する機会を作る。	・改めて基本理念の掲示場所を再確認し、昼礼時に理念の唱和を行った。	・職員全員に基本理念が浸透することにはなかなか困難であると思うが、引き続き取り組んでほしい。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	様々な研修を行い、職員の知識と意識の向上を図り、業務の中で実践していく。	・毎月の会議時に、職員一人ひとりが資料を集めテキストを作り、講師となって研修を行った。 ・今年度は各個人で自主的に研修を受け自己研鑽を行った。	・自分自身が講師になることで自身のスキルアップも図れたと思う。よい取り組みなので今後も継続してほしい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	病院や他事業所、多職種間の情報の伝達や共有について、文書や電話、ファックスを活用し、もれがないように確実に行う。 職員間においても施設内の他職種間で確実な情報の伝達、共有に努めていく	看護師、介護支援専門員がそれぞれ退院前カンファレンスに参加するなど、積極的に利用者の情報収集を行った。また、得られた情報を職員に漏れがないように伝達することに努めた。 ・利用者の状態観察に努め、異常の早期発見と迅速な対応に努めた。	・医療ニーズの高い利用者も増えている。今後も連携を密にし、早期発見、早期対応し、利用者の体調管理に努めてほしい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	研修等の機会を通じて看取りについての理解を深め、医療ニーズの高い利用者への対応や関り方などについて検討する。	・研修会への参加や書籍、ネットなどを活用し積極的に自己研鑽に努めた。	・実際の利用者に関わることで、知識や技術をさらに高めてほしい。
Ⅲ．結果評価 (評価項目 42～44)		看護小規模多機能の特性を発信し、看多機というサービスを地域の方に理解していただくことで、医療ニーズの高い方の	・自治会を通じて全戸にパンフレットの配布を行った。また、地域のサロンやふれあい喫茶等に参加し PR を行った。	・施設の特性を多くの人へ周知を図り、今後も医療ニーズの高い人の在宅介護の受け皿になってほしい。

	受け皿となっていく。	・地域包括、病院、介護支援事業所などへパンフレットの配布を定期的に行い、施設の特長や機能について説明を行った。	
--	------------	---	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)		理念については概ね職員の中に浸透しているものと思う。知識や介護技術については、職員間でのばらつきがあるように思う。介護や医療についての知識を深め、介護技術の向上を図る。	・毎月の看多機会会議、毎日の昼礼や申し送りノートなどを活用し、情報の共有を行い、業務の統一を図る。 ・委員会や研修会に参加し、理解を深め日々の業務に生かす。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	各職員がそれぞれの専門性を生かし他研修を計画し、資料作成を行い、講師を務めるなど自己研鑽に努めていることがうかがえる。職員が協働して対応し研修内容を実践に生かすことが必要。	・引き続き毎月の研修や勉強会、委員会活動などを通じて専門性を高め、職員一人ひとりの知識と意識の向上を図る。 ・看護師、介護職員それぞれの専門性を生かし、得られた知識を業務の中で実践していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	コロナ禍と違い、病院からの退院時は退院前カンファレンスが開催されるなど情報量が増えてきている。積極的に情報収集を行い確実に他機関や職種との連携体制をとることが必要。	病院からの退院については退院前カンファレンスへの参加や入院時はFAXを連絡ツールとして介護情報、看護サマリー、内服情報など確実に送受信する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	施設での看取り経験を活かし、医療ニーズの高い利用者を受け入れ、安心した在宅介護を支援するという意識はできつつある。今後は自宅での看取りにも取り組んでいく。	現在でも病院では面会制限が行われている。「住み慣れた地域で家族と共に最期を迎えられる。」という看多機の強みを地域に発信していく。
Ⅲ．結果評価 (評価項目 42～44)		訪問看護、訪問介護など訪問が少ない。看多機の「通い」「宿泊」「訪問」サービスの強み生かして利用者を支援し、在宅生活の維持と継続ができるように取り組んでほしい。	研修や実践を通じて看護師、介護士のスキルアップを図る。地域に対して看多機の強みを発信し、地域とのつながりの強化を図る。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			・主治医との連携を図り、細かい対応ができているように思う。引き続き利用者と家族が安心して在宅生活が継続できるように対応してもらいたい。 ・高齢や病気の重症化で入退院が増えているが、家族だけで対応できないところを担ってくれている。	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			・今後異動や新規に入職してきた人にも理念の周知と理解を図ってほしい。 ・看多機の職員としての自覚を持って日々の業務にあたってほしい。	✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			・職員一人ひとりが講師になることで施設の特性の理解につながると思う。また、一人ひとりの職員の自覚にもつながっていくと思う。引き続きの取り組みに期待する。	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している			○		・積極的に外部研修などに参加し、質の高いスタッフの育成に取り組んでほしい。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専		○				✓ 「情報を共有する機会」の充足度

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	門員の間で、職員が相互に 情報を共有する機会が、確 保されている	<u>[具体的な状況・取り組み内容]</u> ・毎日昼礼を行い情報の伝達、共有を行 っている。毎月の会議でも利用者各個人 の新しい情報を追加し、個々の対応につ いての話し合いを行っている。				・引き続き、情報の伝達と共 有は確実に行ってほしい。 ・画一的な対応でなく、個々 に対して適切な対応を行っ てほしい。	を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケー スについて話し合うための、定期 的なカンファレンスの開催」など が考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要 望、助言等を、サービスの提 供等に反映させている		○			・コロナ感染症に対する警戒 もありあまり外へ出ていく 機会もなかったと思う。今後 落ち着いたら地域の催しに 参加するなど検討してい ただきたい。 ・レクリエーション活動も工 夫していることがうかがえ る。	✓ 「得られた要望・助言等のサービ スへの反映」の視点から、充足度 を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くこと ができる就業環境の整備に		○			・人事異動はあるが、職員に 大きな変化はなく、利用者は	✓ 「職員が、安心して働くことので きる就業環境」の充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	努めている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・定期的に面談を行い、スタッフからの相談や意見には速やかに対応し、業務の改善などに取り入れている。また、職場環境を整えるなど職員の精神的負担の軽減を図っている。 ・				安心して生活できていると思う。家族としても顔なじみの職員がいるのがいい。	ます ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			・情報の管理、特に個人情報の管理は徹底してほしい。 ・個人の状態や病状などに関する情報は確実に共有し業務に生かしてほしい。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者の変化については申し送りノートを活用し、出勤時に必ず確認し漏れのないように伝達することとなっている。 ・連携ノートを活用し、ご家族からの情報や連絡事項も併せて申し送りノートに記載し昼礼で伝達している。							
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者		○				✓ 「各種の事故に対する予防・対

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・事故防止委員会の委員を中心に、委員会や研修会に参加している。また、共通の事例を用いて研修会などを行っている。 ・事故が起きた場合、事故報告書を作成し、職員間で話し合い、原因分析を行い、対策を考え、共通の認識として対応し、再発予防に努めている。				・利用者の想定外の動きもあると思うが、事故も少なくよくやっていると思う。 ・引き続き事故を未然に防ぐよう努力してほしい。	策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			○		・今のところ災害はないが、いざというときに的確な対応ができるように、常日ごろから訓練を行う事が大切だと思う。また、避難場所、ルートなどを把握することも大切である。 ・備蓄品を確保し、災害時の対応を強化すべきである。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			・ 24 時間の利用者の状態を把握することは困難だと思うが、できるだけ状態把握を行い適切な対応を行ってほしい。	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 家族からの聞き取りや事前情報をもとにアセスメントを行っているが、24 時間すべてを把握することはできていない。 ・ 夜間の状態などは睡眠状態や排泄関係についての聞き取りなどを行っている。 ・ 日々の利用時や関り、訪問などを通じて家族や職員から利用者の情報を収集する努力を行っている。					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			・ 各専門職間で情報を共有し、専門性の高いサービスを行ってほしい。 ・ 医療の必要な利用者もおられると思うが、看護職と介護職が連携しスムーズな対応を行ってほしい。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 介護支援専門員、看護師、介護職ともに対応について情報共有を行っている。 ・ 看護師から介護士へ状態について詳しく説明と指導を行い対応している。 看護師からの情報と指示のもと介護を行っている。					
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			・利用者の現状を把握し、本人や家族の希望を都度反映したサービスを提供してほしい。 ・自宅での介護について、負担軽減を行い、在宅での介護が継続できることが望ましい。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			できるだけ長く“自分のことは自分です”という意欲は持ち続けられるよう、看護と介護が両面からサポートし、機能の維持ができるような関わり方を検討してほしい。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の		○				✓ 「状況変化の予測」と「リスク管

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	[具体的な状況・取組内容] ・医療ニーズの高い利用者に対しては、状態の変化を踏まえ、主治医と連携を図り計画書を作成している。 ・医療ニーズの低い利用者に対しては、毎日の体調管理として対応を行っている。				・病状や状態の変化について、家族に予後の予測などを伝えることも必要ではないかと思う。	理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			・本人の状態の変化を早期に発見し、適切なサービスの提供に繋げてほしい。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 会議の中で多くの視点からの情報を収集し、計画の作成に努めている。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問すること		○			・利用者や家族の状況により、柔軟な対応ができていると思う。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度
		[具体的な状況・取組内容] ・身体の状態や家族の状態などにより宿					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	で、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	泊の延長希望や利用日の急な変更などが生じることもあるが、柔軟な対応を心掛けている。 ・家族の状況変化を確認し、随時利用の状態を検討している。 ・利用の希望日などに曜日に偏りが生じることも多い。					を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			・体調の変化などに対して、救急搬送や入院など早期に対応できている。今後も利用者の状態をよく見て迅速な対応を行ってほしい。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			・情報を共有し、それぞれの専門性を生かして、連携をとりながら対応してほしい。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うこ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							とが重要です
20	○ 利用者等の状況について、 介護職と看護職が互いに情 報を共有し対応策を検討す るなど、両職種間の連携が 行われている		○			看護職、介護職それぞれの専 門性を生かし、連携が取れる ことが望ましい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有お よび対応策の検討」について、充 足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対し て、疾病予防・病状の予後予 測・心身の機能の維持回復 などの観点から、情報提供 や提案等を行っている		○			・看護師が複数配置されてい ることにより安心感がある。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			・まず、他事業所の介護支援専門員に事業所についての理解をしてもらうことが大切だと思う。 ・利用者や家族は丁寧に説明することにより、納得できていると思う。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			・各職種がサービス計画に沿った支援を行い、安心感を持ってもらうことが大切。 ・各職員も家族と良好な関係を築いていってほしい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			引き続き、新しい医療処置や医療機器の情報を吸収し、在宅で対応する家族に的確にアドバイスや指導を行ってほしい。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、		○			・面会がしやすくなってきており、都度本人の状態を見ながら対応をお願いしている。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	サービスの提供に反映している	りにより意向を把握し、サービスの提供に反映している。				・本人は満足しており、家族も安心して任せている。	
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			・利用者の状態により柔軟な対応ができていると思う。引き続き、将来の状況の変化に対応できるよう、利用者の状態の把握に努めてほしい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	○				・家族の精神的ケアも図りながら寄り添って対応してほしい。 ・病院とは違って看取り期に家族が付き添えるということは看多機ならではの思う。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○			・コロナ感染症が落ち着いてきて円滑な病院との連携ができるようになれば利用者の情報も共有しやすくなる。スムーズな利用に繋がるよう期待する。	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・入院時は看護情報、介護情報を病院に提供し、退院時は病院の地域連携室からの情報をもとに対応している。退院時のカンファレンスが行われるときは、積極的に参加し情報の共有を図っている。 ・家族の意向があれば病院受診に同行し、家族からは見えない施設利用時の情報などを医師に伝え情報の共有を図っている。					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			・夜間や緊急時は、どの看護師でも対応できるようにすることが必要。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・訪問看護指示書のある方は主治医と緊急時の対応について相談できている。 ・指示書の無い方については、ご家族からの相談に応じたり内服薬の管理を行うなど柔軟な対応を行っている。					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			急変時は看護師、介護職で連携し、早期対応をとってほしい。夜間など看護師不在時は、連絡体制を整え、スムーズな対応をお願いしたい。 ・夜間の対応は大変だと思うが、夜間急変時の緊急訪問など家族としてはありがたい。今後も在宅で介護を行っている家族の思いに寄り添ってほしい。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			・積極的に施設からの情報を発信し施設を知っていただくような活動を行うべき。 ・地域包括支援センターや地域の自治会、住民からの情報を活用し、地域との連携を深めてほしい。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		行っている。 ・自治会のサロンやふれあい喫茶などへの参加を行い、施設の情報発信を行っている。					✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		・職員一人ひとりが積極的に施設の運営に関わるべき。 ・職員からの情報発信も望む。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・過去の議事録はファイリングしており、誰でも見られる環境を整えているが、職員の積極的な参加とまではいかない。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			・地域の方と一緒に活動することはいいことだと思う。今後も積極的に参加し、看多機としての地域に果たす役割の啓発活動を行ってほしい。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] ・地域のサロンやふれあい喫茶に参加し、サービスや施設の説明を行ってきた。また、職員でチラシの配布や自治会を通じてチラシを配っていただくなどの活動を行った。 ・地域のカラオケ同好会と一緒にカラオケを楽しむなど地域の活動に参加した。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している				○		✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			・今後は24時間の体制が整えられることが望ましい。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○	・ 様々なケースに柔軟に対応してほしい。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			・ 積極的に受け入れ様々なケースに対応できるようになってほしい。 ・ 自宅での看取りなど柔軟に対応してほしい。	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		応のみである。					
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○			・法人の組織の中に地域包括支援センターがある。職員が地域包括ケアシステムについて学ぶ機会があってもいいのではないかな。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			・今後も住み慣れた地域や自宅での生活が継続できるよう、在宅生活を支援してほしい。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている					・地域に対し、周知を図っていくことが大切である。積極的に地域に情報の発信を行ってほしい。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			・これからも、家族の介護負担の軽減を図ることで、在宅生活の継続ができるように支援してほしい。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		・病院からの退院時、対応方法など家族に提案や指導を行い、在宅復帰に繋げることができた。					者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない	ほぼ全員について早期に達成することを望む。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護、介護の両面からのサポートにより、在宅生活の継続に繋げることができている。		
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・主治医の指示をうけ、訪問看護、施設利用時の医療的ケアに対応している。急変時など看護師の訪問や指導を行い不安の軽減に努めている。	介護に加え、医療面においてもサポートが受けられることは安心感につながる。今後の活動に期待する。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない	施設での看取りはスムーズな対応ができ、家族にとってもいい看取りであった様子。今後は自宅での看取りなど様々なケース	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 契約時にすべての利用者、家族に看取りについての調査を行っている。 ・ 看取り調査の再調査を定期的に行っている。	に対応していただきたい。	泊まり)での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」